

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
努力する心をはぐくみ、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい生徒の育成を目指す。あわせて、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。また、あらゆる教育活動を通して、生命と基本的人権を尊重する態度や実践力を育成する。	(1) 授業改善に向け、公開授業週間や研究授業、教育実習、教員養成プログラム（はんなり事業受け入れ）等の機会を活用し、生徒の実態を踏まえた授業づくりに取り組んだ。また、新学習指導要領の完成年度を迎え、指導と評価の一体化を全学年で体系づけた。しかし、1年生の生活アンケートを分析すると「授業改善の要望」が依然高く、今後更に生徒の実態を細かく把握し、学習保障に資する授業研究に取り組む必要がある。 (2) 進路決定は、大学入試においては延べ303名の合格者数を出し、最終進路としての大学は56.3%であった(3/24現在)。就職（学校紹介）では内定率100%となった。生徒の多くが年内に決定する傾向が強くなってきているが、本校で学んだ学力で大学入学共通テストを活用したり、一般入試に挑戦したりする生徒への指導を組織的に実践できる体制づくりが求められる。 (3) 学習用タブレットの使用環境が全学年で揃い、あらゆる教育活動での積極的な活用に取り組んできたが、教科や行事の特性から「より効果的な活用」を更に模索する必要がある。また、生徒、教職員にとって「学力の定着」や「個別最適な学び」に通じる合理的な活用が求められている。情報モラルの向上やスキルアップにも取り組まなければならない。 (4) 探究的な学びとして、2年次に「総合的な探究の時間」を設定し、取り組んできた。今年度は、取り組みやすさを考慮し、実施曜日や時間帯を集中させた。活動しやすくなったものの、一部で施設利用の集中による混乱が起きたことから、対策を検討する必要がある。今後、実施方法を見直すとともに、日々の授業における様々な「学びのあり方」を模索し、勉強や進路実現の楽しみにつながるよう工夫を重ねたい。 (5) 人間性の陶冶に向かう教育活動を進めるにあたり、あらゆる場面において規範意識や人権尊重を重視し、学校行事や特別活動、部活動において実践的に学ぶ機会を大切にしてきた。今後は、それらに加えて主体性や自主性を育み、人格の形成と自らの進路を切り拓くことのできる人材育成を図りたい。 (6) 部活動においては、体育系部活動の入学者選抜B方式による技能的中心選手の獲得を進めるとともに、文化系部活動を含む1年生部活動加入事業を活性化の土台として取り組んできた。多様な生徒の活躍の場に繋がっているといえる。特に、文化系部活動においては年度末に文化芸術祭を実施し、発表の場として位置づけている。 (7) 支援を要する生徒には、SC（スクールカウンセラー）による心理面でのサポートやSSW（スクールソーシャルワーカー）による福祉面での助言を基に、生徒への支援はもとより家族へのアプローチを行っている。本校は、長期欠席者特別入学選抜を実施しており、対象生徒に対してより実態に即した支援態勢を整えていかなければならない。 (8) これまで「地域の高等学校」としての役割を果たすため、学習環境の維持、規範の徹底に取り組み、一定の成果を上げてきた。今後は、生徒の実態やアンケート結果に応じて、「教育活動が生徒の進路実現と人間的な成長、発達につながり、母校に誇りを持てること」を基準に、振り返りを重視し、取り組む必要がある。特に、年度後半に開催した「城陽60プロジェクト会議（創立60周年に向けた学校改革の検討会）」において、学力保障・学力向上のための授業改善等について議論し、具体策を検討した。実効性のある取り組みにしていきたい。	(1) 授業において、生徒が「（面白さを）知る」「（理屈が）分かる」「（学びを）使う」「（考えを）伝える」ことを通し、知的好奇心や自己表現の基盤となる語彙力と、相手の言葉や文脈、その背景や全体の主旨等を理解する読解力を強化する。 (2) 諸活動において、生徒が「（全体像を）知る」「（方法が）分かる」「（環境を）整える」「（機会を）活かす」ことで、それまでの活動を改善し、学校生活を彩り豊かな生活の場とする。併せて、(1)の語彙力、読解力の強化の機会とする。 (3) クラスや学年の取り組みを通して、自己表現力や他者への共感力を高めつつ、集団としての問題解決能力を育成する。また、個々の生徒の実態に応じた自己実現と進路決定を支援する。 (4) 学力保障に向け、指導と評価の一体化をより進めるとともに、教員の授業力向上と図書館教育の充実を図る。 (5) 多様な考え方を尊重し、心理的安全性を確保する中で、規範意識の向上を促し、自他ともに成長できる場を確保する。生徒を守り、育て、鍛えるタイミングを見極め、スモールステップで成長を支える。 (6) 進路目標に応じた学力の獲得に留まらず、社会人としての規範意識やコミュニケーション能力を育成するとともに、生徒の可能性を開く進路開拓を行う。 (7) 自他の健康や生命を守るとともに、環境美化活動に自ら取り組む習慣を身につける指導を工夫する。また、要配慮生徒が安心して生活できる支援を専門家の助言を元に組織的に取り組む。 (8) 教育活動の「見える化」を一層進め、各教科・各分掌の特徴的活動を中学生や地元に応報する。また、家庭や地域との連携、国際交流を進め、「社会に開かれた学校づくり」を進める。 (9) 生徒、保護者が事務処理面での安心感をもって通学・生活できる連絡、助言、手続きに徹する。また、危険個所の早期改善により学校生活に対する安心感を担保する。 (10) コンプライアンス（法令順守）と、ガバナンス（適切な管理体制）の維持により、社会通念との整合性を図り、人材育成を進める。また、項目(1)～(9)に関する進捗を把握するとともに、校長諮問機関（プロジェクト会議）を活用し、本校の特色・魅力づくりを進める。

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評 価			令和7年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
教務部	学力向上	学力向上	・学習に課題を持つ生徒が多数入学してくる本校の状況を踏まえ、各教科で基礎基本を重視した指導の充実を促進する。 ・基礎補充・基礎固め学習会・大学生教育ボランティアによる補充等を昨年に引き続き実施し、成績不振者への指導を継続する。				
		学習習慣の確立	・各教科、学年部と連携し、家庭学習強化週間など自主的な学習を促進する取り組みを企画、実践する。 ・スタサプ等の学習ツールの活用を促進し、教務部の取り組みの強化・充実を図る。				
	授業改善	充実した授業の確立	・教員生徒相互の信頼関係を基盤に、落ち着いた規律ある学習環境づくりを促進する。 ・ベル始業、授業はじめ・終わりのあいさつ、携帯電話の注意等引き続き全教職員で一致した指導を行う。 ・生徒の実態に応じた授業実践を通して、学習意欲を喚起し、主体的に学習する態度を育成する。				
		教科の指導力向上	・主体的に学び、行動する生徒の育成を目指し、学習に対するモチベーションの向上を目指す。 ・公開授業、授業アンケート、教科内交流等を実施し、指導内容、指導方法の工夫改善を促進する。 ・授業公開等を企画し、電子黒板、タブレット等のＩＣＴ機器や、スタサプ、ロイロノート等の学習ツールのさらなる活用を促進し、全教職員のスキルアップを図る。				
		新指導要領への対応	・観点別評価について、生徒の実態に則して適切な評価となるよう各教科と連携し改善を進める。 ・総合的な探究の時間の実施においては、担当者の負担軽減を図りながら、スムーズな運営と質の高い授業を目指し改善を図る。				
	図書館教育	読書内容の深化	・昨年度は貸出冊数の増加は見られたが、活字主体の図書の利用が少なく、マンガ中心の利用が多い。今年度も教務部（図書担当）のみならず学年、教科の協力も得ながら活字主体の図書の利用増を目指して様々な活動を行う。年間の貸出冊数の50%を活字主体の図書の利用となることを目指す。（昨年度39%）				
		教科・分掌との連携	・「教職員向け図書館だより」の定期的な発行などで学校図書館の存在意義についての情報発信を行いながら、2年次の探究学習を始め、各教科・学年・分掌などと連携し、図書館利用を通じて生徒の基本的な情報検索・活用能力を養う。環境整備面ではコピー機の導入を考える。				
		図書委員会活動の活性化	・生徒の意見を取り入れながら読書週間などのイベントを通じて生徒の活躍の場を増やし、図書委員会のさらなる活性化を図る。				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評 価			令和 7 年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
生徒指導部	基本的生活習慣	生徒が学校に軸足を置いた生活が送れるように、さまざまな指導を全教職員で連携して行う。	・ 基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上のため、遅刻、制服の正しい着こなし、身だしなみを整えることに重点を置いた指導を行う。また、指導が必要な場合は丁寧に話をすることにより、多様な考え方を持った生徒にも寄り添った指導を行う。				
			・ 登下校でのマナー（電車マナー含む）を周知徹底するとともに、事故の数（特に自転車事故）を少なくできるよう城陽警察や地域ボランティアの協力のもと、注意喚起を継続的に行う。				
			・ 授業開始時の規律を確保するとともに、タブレットや携帯電話等についてのルールを定期的に確認し、これに関わる指導を減少させる。				
	特別活動	部活動・生徒会活動・ボランティア活動を活性化する。	・ 全部活動で挨拶、礼儀、清掃活動等を行うことで活性化を図る。また、学校行事において部活動員が積極的に参加することにより、学校運営の柱となれるようにする。				
			・ 1 年生部活動一斉加入では、未活動者がでないように各部活動で継続的な指導を行い、生徒が活動できる場を提供する。未活動者については学期ごとに活動状況を把握し、指導を行う。また、2・3 年生についても3 年間継続できるような指導を行う。				
			・ 生徒会活動を中心にして、各委員会やボランティア活動を活性化し、生徒が主体的に活動できるような環境をつくりサポートする。また、各行事においては新しい取り組みを少しずつ取り入れることを検討する。				
	いじめの防止	いじめの定義について全教職員で把握し、いじめに対して早期に対応できるようにする。	・ 職員会議等ではいじめの定義について周知し、生徒についての情報共有や教員間の連携を行うことで早期に対応できるようにする。				
			・ いじめ対策委員会を開くことで、情報の共有を密にし、組織でいじめに対して対応できるようにする。				
	人権教育	学年や分掌・教科と連携しながら、さまざまな人権問題について学習を深め、人権尊重の実践的態度を育む。	・ 3 年間を見通した系統的な人権学習を計画し、実行する。				
			・ 「人権教育だより」の発行を通して、人権教育をすべての教職員にフィードバックする。				
進路指導部	キャリア教育の推進および希望進路の実現	生徒の希望進路の実現に向けた意欲と学力を向上させるとともに、社会性の獲得を支援し、可能性を開花させる取組を展開する。	・ キャリア教育実施計画に基づき、多様な背景を持った人材・外部の教育資源の活用を柱とした「TAG城陽」の取組を推進し、生徒のコミュニケーション能力の向上や、集団や社会の一員としての見方、考え方の獲得を目指す。また、自分自身で進路を切り拓く能力や態度を養う。				
			・ 就職補講や進学補講、業者模試等を適切に実施することで、継続的、主体的に学習に取り組む生徒集団を形成するとともに、生徒が粘り強く希望進路の実現を目指せる環境を整備する。				
			・ 「進路のしおり」の充実を図り、各種説明会を実施することで最新の進路情報を適切に提供するとともに、学年部と連携し生徒とのカウンセリングの機能を高める。また、ICT機器を活用した進路指導を推進する。				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評 価			令和7年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
保健部	保健管理	生徒の理解（教育相談）と支援	・健康診断や健康相談を実施し、生徒の健康状態の把握と指導に努める。 ・担任や教科担当者と生徒の情報を共有し、教育相談会議を通して、支援につなげる。 ・特別支援教育の視点を活かし、支援対象生徒の把握と支援に努める。				
	校内研修	教職員の指導力向上	・熱中症予防の校内研修会を実施することで、生徒が倒れた場合などに、教職員が適切な対応を取れるようにする。				
	安全管理	校内美化・環境整備	・授業時に教室を確認し整った環境で授業を行うとともに、日常の清掃活動を丁寧に行うことを定着させ、美化意識を高める。				
総務企画部	外部評価	学校評価アンケートの回答数確保及び年度比較による取組の検証	「学校評価アンケート」について、過半数を目標とする回答数の増加を目指す。 「回答結果の年度毎の推移」を、今後の本校のあるべき方向性を検討するための材料に資するよう努める。				
	家庭・地域社会との連携	保護者等へのPTAの諸活動の「見える化」と、より本校教育活動に資する支援事業の企画立案・運営	より効率的なPTA諸活動の運営に努めるとともに、本校ホームページや「PTAお知らせメール」等のツールを活用し、本校保護者等へのPTA諸活動の様子を積極的な発信に努める。				
	広報	本校教育活動の「見える化」の推進及び特徴的活動の積極的な広報	令和7年度「学校経営の重点」としての「読解力・語彙力」の強化を推進する本校の姿を広くアピールしていくことを目指す。				
			広報活動全般において、「生徒の主体的な活動」を中心にした展開に努める。				
			公式HP運営について、外部に向けて、より本校教育活動の「見える化」に資する運営に努める。				
	国際理解教育	国際理解教育講座の円滑な企画運営及び国際交流の推進	本校生徒に府教育委員会「府立高校生海外留学支援事業」をはじめとする留学支援事業への参加を喚起し、本校生徒の海外留学への意欲を促進する。				
			年間LHR計画の中に国際理解教育講座を位置づけ、より生徒が興味関心を持って学習することが出来る内容を企画する。				
第1学年部	学習指導 進路指導	学習習慣の早期定着 各自の進路目標に応じた文理選択の推進	・進路指導部や教科と連携して学習に関わる情報を定期的に伝えることで、学習の意義を理解させ、早期に学習習慣を付けさせる。 ・面談等を通じて生徒一人ひとりが2年次以降のコース・科目登録にしっかり対応できるように各分掌・教科と連携して文理選択を進める。				
	生徒指導	ルールの遵守、人権尊重の意識の定着	様々なルールをただ守らせるのではなく、理由を理解させたうえでの継続指導をおこなう。適切な場面で、「人権尊重の考え方」に触れ、人権意識を高める。				
	特別活動	学校行事、部活動を通しての人間形成	部活動や学校行事を通して、生徒一人一人の自己有用感を高め、「城陽高校への思い」のこもった良好な学校生活の基盤を作る。				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評 価			令和7年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
第2学年部	学習指導 進路指導	進路目標を明確化させる。	面談や普段の会話等を通して、生徒一人一人の将来に向けた進路選択ができるように、進路部等とも協力し、自分自身の意志で進路選択を進めていけるように指導を進める。				
		進路実現のための基礎学力の定着と発展的な学力を向上させる。	進路実現に必要な学力を生徒自らが認識できるように、進路選択の指導に合わせ、考査ごとに生徒とのコミュニケーションを密に取るなどして、指導の余地を残さないようにする。				
	生徒指導	規範意識を徹底させる。	継続した生徒指導と普段からの観察や声掛けを徹底するとともに、生徒自身に規律遵守の重要性を理解させていくように、生徒指導部等とも協力し、指導を進める。				
	特別活動	学校行事等を通して自己肯定感や達成感を感じられるよう指導する。	文化祭や研修旅行といった大きな学校行事を通し、生徒自身が自分自身が自ら考え、動き、その結果を踏まえて反省、改善していくといったプロセスを通して成長していけるように指導を進める。				
第3学年部	進路指導 学習指導	高校卒業に値する学力を獲得させ希望進路を実現させる。	教科担当者との連携を密に行い、日々の学習に積極的に取り組ませる。				
			情報収集集、スケジュール管理をしっかりと行わせるとともに、進路実現に必要な学力の獲得に取り組ませる。				
	生徒指導	これまでに培った規範意識に基づき、自ら考えて行動できる力を身につけさせる。	ルールを守ることの意味を日々の活動の中で理解させ、同じことを繰り返させない指導を行う。				
	特別活動	学校行事、部活動を通じてレベルの高いものを作り上げさせる。	生徒一人一人の自己肯定感と自己有用性が高まるように、適切なアドバイスを行う。				
事務部	渉外	学校と住民・来校者等をつなぐための、迅速で適切な窓口対応、電話対応を行う。	学校行事、校時、教職員の動向の把握に努め、事務室内で情報共有する。				
			来校者の目的・用務先等を正確かつ丁寧に把握し、来校者が円滑に目的を果たせるよう努める。				
	就学援助	生徒と保護者が安心して教育を受けることができるための経済的支援体制の充実に貢献する。	就学支援金や奨学金などの各種援護制度について、生徒と保護者へ周知が図れるようスタディサプリやホームページの活用をより進める。				
			生徒に不利益が生じないように、状況に応じて学級担任や他分掌との連携を密にする。				
	施設設備	安心安全な学校の環境整備に向けて最善を尽くす。 I C T環境野整備を図る。	状況改善のための迅速な対応に努め、生徒や保護者に向けた報告等を心がける。				
			I C T環境整備に向けて関係分掌との連携を図り、機器の整備に努める。				

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評 価			令和7年10月時点での成果と課題
			中間	期末	総合	
国語科	授業規律を確保し、生徒が安心して授業に参加できる空間をつくる。また、生徒が理解しやすく、意欲が高まる授業を展開する。	・授業規律を確保するため、授業開始と終了時の挨拶（起立・礼）をしっかりと行うなど、学習に向かいやすい環境作りに努める。 ・ICT機器や各種資料を効果的に活用することで学習意欲を喚起し、理解しやすい授業を展開する。				
	国語の学力を向上させ、生徒の希望進路実現に努める。	・予習復習、課題を定期的に課すことで家庭学習を行う習慣をつけさせる。また、小テスト等を適宜実施することで、学力の向上を目指す。 ・配慮が必要な生徒や大学進学を考える生徒が増えている実情を踏まえ、授業や補習・個別指導を通じて個々の学力に応じた指導を強化する。 ・大学入試対策として、全学年で「書く」ことへの指導を行い、小論文や志望理由書が自分の力で書けることを目指す。				
地歴公民科	世界の諸問題に対する思考力の向上をはかる。地図やグラフから、時代や地域の特色を読み取る力を養う。主権者としての政治的教養の育成をはかる。	歴史では日本史と世界史を関連させ、図表等を効果的に活用し、世界における日本文化の特質を理解できるようにする。また、広い視野から世界の諸問題について考える力を養う。 地理では地図帳・資料集を活用し、生徒の問題意識を視覚的側面からも刺激する。 公民では現代のニュースと授業を関連させ、最新のデータ等を効果的に活用して生徒の知的好奇心を喚起させるとともに、主権者としての自覚をもたせる。 I C Tの活用機会を増やし、様々な図や資料を掲示することで、生徒のさらなる意欲・関心の向上に取り組む。				
数学科	学習意欲を喚起し、確かな学力の定着を目指す。	私語のない、授業規律の確保に努める。				
		学習習慣をつけさせるため、（週末）課題を与える。また、基礎力の定着を図るため小テストを行う。				
		ICT機器の活用やグループワークなどで、生徒の学習意欲や理解力向上を目指し授業改善を模索していく。				
		個に応じた指導を行い、様々な学力層の生徒に対応した指導を行う。				

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評 価			令和7年10月時点での成果と課題
			中間	期末	総合	
理科	確かな学力の定着	その単元での到達目標を明確にし、教員が理解し授業を実施するとともに生徒にも明示し、基本的な知識を身につけ積み上げていくことの重要性を意識させる。				
		理科が日常に結びついていることに気づかせ、生徒が学びたいと思うような授業を実践する。				
	主体的・協働的な学びの推進	理科の内容を通じて、自分の考えや気づきを相手に伝える語彙力、表現力を育てる授業を実践する。				
		デジタルコンテンツを中心とした視聴覚教材や実物等も用いて、生徒の興味関心をひきつける。				
		生徒がタブレットを活用し、他者とともに考えながら学べる機会を設ける。				
	不断の授業改善	教科内で、公開授業期間以外でも授業を見学するなど交流を大切にし、互いの良いところを取り入れるなど、授業改善に努める。				
		教科研修を実施し、専門性の向上に努める。				
		日々の授業において観点別評価を行い、その結果を分析し、授業改善に努める。				
保健体育科	個人・集団の規範意識の向上	・学習環境の維持・向上 (挨拶の徹底、服装・身だしなみの指導、荷物の整理整頓)				
		・帰属意識を高め、自身と自校に誇りがもてる指導				
		・体育授業後の授業遅刻に対する指導				
	主体性や自主性を育み、体力、語彙力・読解力を強化する授業	・ICTのより効果的な活用から生徒の主体的・自主的な学びを促進する指導				
		・インプット(知る・分かる)とアウトプット(使う・伝える)に協働的に取り組むことのできる指導				
		・一斉・個別指導の使い分けと適切な水準の課題設定により、スモールステップで達成感・充実感を味わうことができる学習保障				
	授業の準備・事後処理	・施設・用具点検、安全確認				
		・指導と評価の一体化の推進				

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評 価			令和7年10月時点での成果と課題
			中間	期末	総合	
芸術科	授業規律を確保し、生徒が安心して授業に参加できる空間をつくる。	・授業規律を確保するため、授業開始と終了時の挨拶、授業準備と片付けをしっかりと行い、学習に向かいやすい環境作りに努める。				
	生徒が理解しやすく、興味関心を持てるような授業を展開する。	・ICT機器や各種資料を効果的に活用することで生徒の興味関心を喚起させ、分かりやすい授業展開を目指す。				
英語科	・「確かな学力」を身に付け、多様な進路選択に対応できるよう、授業等の創意工夫に努める。 ・ICT活用、多様な言語活動、多面的な評価の充実により、生徒達の英語学習へのモチベーションと英語力の向上を目指す。 ・英語に苦手意識を持って入学してくる生徒が多い中、生徒達が授業を通して達成感や自己有用感、自らの成長を感じられる機会を増やす。	・家庭学習を定着させるため、各学年とも定期的に(週1～2回以上)単語テストなどの小テストを実施し、週末課題を課すなど計画的に取り組む。 ・個人・ペア・グループでの言語活動(音読、対話練習等)の機会や各レッスンのテーマについて考える機会を増やすことで、英語でコミュニケーションを取ろうとする態度を養うとともに、主体的に学ぶ態度を養う。 ・またパフォーマンス課題(音読テスト、レシテーションコンテスト等)を課し、英語で話すこと、人前で発表すること、自己表現の楽しさを実感させる。AETを積極的に活用して4技能5領域の向上を目指す。				
		・進路実現のためのスキルアップ、英語力向上の手段としてGTECの受験を奨励する。即興性のあるスピーキング力や自らの意見を論理的に伝えるためのライティング力の向上を軸としたGTEC対策を授業に取り入れ、サポート体制を強化する。 ・HOPE講座や進学補講等、スタディサプリを活用し入試対応力を育成することで生徒の進路実現を支える。				
		・BYODによるiPad導入に伴い、教科内で効果的なICT活用法について活発な情報共有を行い、個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びの推進に努める。				
	・英語をコミュニケーションの手段として使う経験を通して、英語を使う楽しさを実感し、将来海外の人と積極的に関わろうとする生徒を一人でも多く育てる。	・授業内での英語での発表活動、イングリッシュチャットなど、生徒達が英語に対する興味関心を深められるような活動を企画、実行する。また、総務企画部と連携し、校内外にその様子を報告する。				

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評 価			令和7年10月時点での成果と課題
			中間	期末	総合	
家庭科	・主体的に考え、実践できる学びをすすめ、生活を自分事として創造する姿勢を育む	・1年生家庭基礎において、定期的に文字数を示した記述にとりくませることで語彙力を強化し、論理的思考力を育成する。				
		・ホームプロジェクトの内容を向上させるための指導方法を工夫することで、挑戦する意欲や表現力を育成する。				
	・新観点別評価への対応	・1年生家庭基礎では第Ⅲ観点の評価方法を増やすことで、生徒の主体性をより適切に評価する。				
		・3年生フードデザインおよび保育基礎において、第Ⅰ観点を評価する場面を設定することで、評価のバランスを整理する。				
商業科・情報科	「わかる授業」の実践を行い、個々の生徒に応じた学力の伸長を目指す	基礎基本を徹底し、定期考査の平均60点を目標に、個に応じたきめ細かな指導を実践する。				
		個に応じた「確かな学力」を身に付けさせるため、わかる授業を意識した授業を行い、学年末の成績による不振者0を目指すとともに、各種資格取得を目指す生徒の希望を実現できる学力を身につけさせる。				